

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0170503106		
法人名	株式会社 フロイデプランニング		
事業所名	グループホームけあふる もみじ		
所在地	札幌市南区藤野4条2丁目3-12		
自己評価作成日	平成29年3月15日	評価結果市町村受理日	平成29年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニット月に1度は行事を行っており、全ユニット合同の夏祭りやクリスマス会などにはご家族様や地域の方々を招待し交流を深めている。隣の白樺と日常的に合同行事の機会が増えている。施設内は全面バリアフリーで共用スペース・居室共に床暖房が設置されている為、入居者様に快適で心地のいい暮らしが出来る様に配慮している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvogyoCd=0170503106-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	平成29年3月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市南区藤野の閑静な住宅地に位置した、法人の広い敷地内にある2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には、公園や幼稚園・学校、ホームセンターやファミリーレストランなどがあり、利便性のいい地区である。敷地内には、同法人のグループホームとサービス付き高齢者向け住宅や高齢者専用賃貸住宅、住宅介護支援、訪問介護、福祉用具貸与事業所があり、各事業所は連携して高齢者の介護と生活支援に努めている。本社は中央区にあるが、代表者は殆ど毎日各事業所を巡回して経営理念を基にしたケアの周知に努めており、特に医療機関のデイケアの活用を業界で先駆けとして行っており、効果が期待されている。ホームは、現在の場所に昨年2月に新築移転し、暖かい床暖やゆったりとしたリビングと食堂、非常口を2階にも設置するなど災害時に配慮している。また、敷地が町内の一角を占め、介護事業所が集約していることにより、災害時の地域の避難場所となっている。事業所合同で開催する夏祭りは地域の盛大な行事となるなど地域の一員として、高齢者の生活支援と介護にこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳・自立・自由を事業所理念として掲げている。全職員が理解し業務にあたっている。定期的なカンファレンスを行い、理念に沿ったサービスの提供を心掛けている。	理念は事業所内に掲示し、意識づけしていくために、年4回全体カンファレンスで理解を促し、日々の中でも確認して、実践につなげるよう務めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	賛助会員として町内会に参加している。なつまつりや輪投げ大会などに参加したり、事業所内での大型行事には町内の方を招待したりと地域住民との関係が途切れないように努めている。	利用者は、地域のお茶会や盆踊りなど行事に参加している。また、コーラス隊の合唱や町内会子供みこしが来てくれるなど日ごろから交流を行っている。特に、事業所が合同で主催する夏祭りはチラシ配布などの地域の協力もあり、盛大な地域のイベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の特色については運営推進会議などを通し説明し知って頂いている。また、認知症や介護について困ったことがあったらいつでも相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。事故や活動の報告を行い、参加者より意見を頂いている。毎回テーマを設定し外部の方やご家族様のアドバイスを基にサービス向上に活かしている。	会議は隣接した同法人のGHと合同で定期的開催されおり、事業所からの報告と参加している包括職員、町内会、家族からの意見や要望、質問を話し合いサービス向上に努めている。	運営推進会議は、各委員が参加して、定期的開催して、意見交換などし運営に反映しているが、運営内容や会議の内容がわかり易い議事録の工夫をして家族へ報告するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方や区役所職員の方との連絡を日頃から行い、協力関係が築ける様にしている。	区役所へは頻繁に訪れて報告や相談をしており、日頃から情報を共有して協力関係を築き、より連携を深めるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の視点から、夜間帯のみ玄関を施錠している。身体拘束については、ユニット内で内部研修を行い職員の周知に繋げている。	理念の尊厳に基づき、人間らしく生活できる場を提供できるよう、内部で定期的研修を行い、全職員が禁止となる行為を正しく理解し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内で内部研修や会議を実施し、虐待がないように注意喚起を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もおり、後見人と連絡を密に取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人様とご家族様立ち合いの元、契約書の読み合わせを行い、疑問・質問について詳しく説明し納得して頂いたで、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設けている。相談・苦情・要望などはそこで対処内容などを記録保管し、誠意をもって対応する様にしている。入居者やご家族様からの意見などはすぐに対応できない場合、運営主体である本社に報告し相談を行っている。	ユニット毎に作成されているホーム通信と、代表者のお手紙を毎月家族に送付して、運営状況などを報告している。また、玄関に意見箱を設置して利用者、家族の意見や要望を聞く体制にしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の総合カンファレンスでは代表者も出席し、意見や提案を行える機会を設けている。また、個々に代表者との個人面談を実施している。	会議や個別面談で、職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映している。代表者もよく事業所を訪れており、職員からの意見や要望を話し合うことが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務姿勢や面談により社員各人の勤務成績を査定し給与改定を行っている。給与体制はキャリアパスを公示し、要件を明確にすることで職員の意欲向上に努めている。給与ベースアップを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップとして資格取得に歓迎であり、それに伴う日程調整など行っている。当社独自の資格支援制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市や区の管理者会議に参加している。そこで他の施設の管理者との活動内容について情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様やご家族様へ十分な聞き取りを行い、施設で生活する際に不安な事や要望など介護契約書に反映出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前の面談や見学の段階から本人様やご家族様からの要望を聞き出せるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り・相談の上、必要に応じて協力医療機関のデイケアを利用するなど、様々な支援の方針を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、役割を持って頂ける様に支援している。食器拭き・洗濯物たたみなどの範囲内で無理の無いように配慮して行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際には都度本人様の状態の報告を行っている。支援をする上で困っていることなどを相談し協力を求めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来所される事もある為、来所される方々と入居者様との関係性の把握に努めている。	職員は、関係が途切れないように、友人が気軽に訪ねて来てくれるような雰囲気づくりに努めている。家族と馴染みの美容室に行く人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や外出行事などの社内での座席などは入居者様同士の関係性の把握に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した入居者様でもそのご家族様からの相談などがあれば出来る限りの対応を実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを行い話の傾聴を行っている。意思疎通が困難な方などは本人様の立場になって考えご家族様も含めた話し合いをし方針を決定している。	日頃から担当者が情報を収集し、傾聴を行い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族とも検討し、本人本位の生活が出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様への入居前の話の聞き取りなどでのこれまでの生活歴やサービスの利用歴などを記録し以前利用されていた施設や医療機関との情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や本人様からの訴え、心身の状態などは常に介護記録に残すようにし職員内での情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様のニーズやご家族様からの希望・医師や看護師の意見も取り入れた介護計画を作成している。定期的・本人様の状態変化に合わせてその都度見直しを行っている。	本人・家族の意向をもとに、医療機関の意見も参考にしてケア介護で検討して、その人に見合った介護計画を作成し、説明同意を得ている。定期的または必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は実施状況等個別に記録しており、すぐ確認出来る様にしている。また、ケア会議で、モニタリングの結果も話し合い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに応えられるように、本人様の状況変化に応じてアセスメントをとり、都度ご家族様に相談し介護計画の見直しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や福祉促進等の取り組みを把握し、入居者様が参加できる行事は参加させて頂いている。また、運営推進会議などにて地域包括支援センターや民生委員の方々よりアドバイスを頂いたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様が常に適切な医療を受けていられるよう、通院介助や医療機関との情報共有を適時行っている。	本人・家族等に希望を聞き、常に適切な医療を受けられるよう、複数の医療機関と協力して個々の病状に合わせた受診ができるように体制を整えている。月2回、協力医の訪問診療があり、24時間対応の連携体制である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の他にも入居者様の体調の変化があった際には都度状況報告を行い適切な看護を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の状態変化の把握を行い、入院時情報提供を詳細に伝えられるようにしている。定期受診などにより、病院の医師・相談員とは情報交換を行い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方針・終末期の説明は行っている。実際に重度化した場合には医師やご家族様方と話し合いを行い今後の方針を決定している。	入居時に、指針と事業所でできることを説明して、同意をもらっている。重度化した場合の対応については、家族と話し合い医療機関と連携して情報を共有し、チームで支援に取り組んでいる。また、協力医療機関による看取りについての職員の勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命講習を職員が受ける機会を設けている。法人内の役職者が講師資格を取得し、法人内で講習を行える環境を整えている。訓練時にも心肺蘇生法やAEDの使用訓練を取り入れるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を消防職員立ち合いのもと実施している。また、災害に備え、常時持ち出しの物品・水・食料の確保も行っている。	消防署指導の下、年2回避難訓練を実施している。災害対策として備品や備蓄の確保、連絡網の整備、避難場所の把握などを行っている。また、地域の避難場所にもなっている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時やカンファレンス時は入居者様の情報が他者の耳に入らない様注意し、名前を伏せている。また、入居者様に合わせたトーン・ボリューム・言葉掛けを行っている。	プライバシーを損ねないような対応を心がけ、一人ひとりの尊厳を大切にサービスの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状況に応じて、自己決定が出来る様に質問を二者一択にするなどの工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	大まかな1日の流れはあるが、各入居者様の体調や希望を優先し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はなるべく本人様に合わせて選んで頂ける様にし、本人様の好みの把握に努めている。外出や行事の日にはお気に入りの服を提案することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全の為刃物は職員の取扱いとなっているが、片付け等の出来る事は入居者様と一緒にやっている。メニュー考案の際には入居者様の嗜好・嚥下等の状態を考慮して作成して提供している。	栄養士のアドバイスをもとに、利用者の好みや要望を聞いてメニューを作成している。利用者は料理の下準備、食器の後片付け、また、漬物やおはぎ作りなどを職員と一緒にしたり、寿司パーティーなどして食事を楽しいものにして	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を把握し、栄養状態が保たれているか医師や看護師と情報を共有している。また、必要に応じて栄養補助剤の摂取も検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	手入れに使用する歯ブラシや舌ブラシの器具も個々に応じて用意しており、見守りや介助を行い清潔が保たれるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心を傷つけないようにさりげな排泄確認を行い、状況に応じて声掛けや誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け、誘導の支援を行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、パット類なども本人に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中には便秘予防も兼ね体操を実施している。また、看護師の勧めのもと起床時にはスポーツドリンクや経口補水ゼリーなどここで提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	大まかな入浴日はあるが、本人の希望に応じて臨機応変に対応している。	週に2~3回の入浴となっているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。清潔を保つよう、清拭をしたり臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を設けたり、夜間帯は光や音で睡眠の妨げにならないように注意している。また、褥瘡防止の為定時での体位交換や、ご家族様と相談のもと除圧対応の寝具の使用など行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があった際には、何故処方されたのか・副作用等職員一同把握しており、薬事情報はいつでも確認が出来る様にファイリングしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意・不得意や好き・嫌いなど踏まえた役割や余暇活動の支援を行っている為、1人1人の今までの生活や状態を職員が把握できているよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望による外出や外気浴には可能な限り対応している。行事の際にはご家族様や地域の方々のご協力も得ている。	天気の良い日には日光浴をしたり、敷地内の散歩や近所のコンビニへの買い物など、希望に沿って出かけている。また、さっぽろ湖へのドライブや定山溪で足湯とそばの夕食など外出行事には家族などの協力を得て、出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はある程度出来る方はご家族様の同意のもと、少額であるが自己管理されており、困難な方は必要に応じて使用出来る様にご家族様の同意のもと管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度写真付きの通信を送付し入居者様の様子を伝えている。また、電話の取次ぎやご自身で書かれた手紙の送付などは都度行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の際には事前にポスターなどでお知らせしたり、季節のイベントに合わせた共有空間の飾りを行うようにしている。また、光や気温の調節にも気を掛けている。季節感を出す為の飾り付けも行っている。	全館床暖房の設備で冬季間も暖かく、日中をほとんど過ごす居間・食堂にはベランダから明るい日差しがたっぷり入るので、室温には配慮している。共有空間には、利用者の作品や季節を感じるもの、時にはイベントに合わせた飾りつけをして楽しめる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の好きな場所で過ごせるように心がけている。気の合う入居者様同士で過ごせるようにソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様が家で飾っていた物や作られたものなど馴染みのある物を居室に飾ったり出来る事を伝えている。	居室には馴染みのある物を持参してもらい、家具の配置などは本人や家族と相談しながら、安全に過ごせる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには表示案内を付けている。居室ごとに表札を掲げたり、車椅子の走行や歩行時に危険が無いようにスペースの確保を行っている。		